

約10年前から関わっている研究テーマとして「子ども虐待の発生予防」があります。児童福祉施設などの活用ではなく、虐待・ネグレクトの発生を予防するための方策を探る目的で、妊娠期から5歳までを縦断的に調査し、妊娠期の女性の健康状態や養育環境、ストレス対処能力と子どもの発達との相互関係を経時的に考察しています。

妊娠が判明してからの飲酒や喫煙の継続は、胎児虐待とも考えられます。また、しつけと称する体罰や虐待の連鎖の実態、虫歯が多く体重が増えない事例、保育園などで確認するサポート票から問題の背景理解を職員と一緒に深め、自傷や攻撃的な言動の子どもの多様な表現や親の経済問題から医療につながらない事例にも外部の助言者として間接的に関わってきました。日本のみならず世界的に

乳幼児精神保健に関する注目と関心は高まっており、子どもと母親の「甘え」(人間関係の基盤となる信頼関係)間主観性)の重要性について臨床に関わる専門職や関係団体が集まり、最新の知見を共有しています。平成28年11月11日・12日に長崎大学で開催された乳幼児精神保健学会では全国から約300人が参加し、児童精神科医や臨床心理士による箱庭療法(※1)と身体医療との併用で状態が改善した事例や親子の関係性が高まったといった実践報告がありました。

0歳から18歳、時によっては20歳まで子ども期があります。子どもが表現する言動の変化や心身状態の把握と個別支援は長期化し、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、最近では、大学卒業までも視野においたシームレスな支援が必要となっています。

社会福祉士・精神保健福祉士であるスクールソーシャルワーカーも教育現場では不可欠となってきています。子ども期の多様な発達課題に対して養護教諭や生徒指導担当教諭、スクールカウンセラーと共に連携・調整・仲介をする専門職の活動が期待されています。現在では、要保護児童対策地域協議会の支援対象も「要保護児童」から、保護者の養育を支援する必要がある「要支援児童」や出産後の養育を出産前から支援する必要がある「特定妊婦」にまで広がり、保健医療福祉教育関係者の早期の気づきと子どもの変化を観て伝え合うことが要求されています。地域でも養育者のできないことや不十分な取り組みを責めることなく、養育や子育てに対する支援のSOSを示している事象だという視点で、丁寧に親身に関わることが必要と言えます。

支援関係者も十分な経験を積んでいるとは言えません。支援者をサポートしようとする体制が現場の関係者や組織運営には必要で、担当者だけに責任を負わず、よくな仕組みも燃え尽きや退職につながるように思いますが、子どもが生まれてきてよかった、この地域に生まれ育ってよかったと思える、さらには親が子育てを楽しく思える、多くの支援関係者の支えがあり、いつでもどんなことでも相談できる場所や人がいる、そのようなまちづくりこそが虐待の発生予防とすべての人々の精神保健の保持増進につながると思っています。

※1箱庭療法
セラピストが見守る中で、クライエントが自由に部屋にあるおもちゃを砂の入った箱の中に置く心理療法の一種。



支援関係者も十分な経験を積んでいるとは言えません。支援者をサポートしようとする体制が現場の関係者や組織運営には必要で、担当者だけに責任を負わず、よくな仕組みも燃え尽きや退職につながるように思いますが、子どもが生まれてきてよかった、この地域に生まれ育ってよかったと思える、さらには親が子育てを楽しく思える、多くの支援関係者の支えがあり、いつでもどんなことでも相談できる場所や人がいる、そのようなまちづくりこそが虐待の発生予防とすべての人々の精神保健の保持増進につながると思っています。

新図書館完成へのカウントダウン！

4月にオープンする新図書館の建物がほぼ完成しました。このあと、家具や本棚などの什器類の搬入、案内板などの取り付け、図書の配架、システムの稼働テストと準備が進みます。

新たな図書館で学び、集い、過ごすイメージを持ってもらうため、12月に「学生向け見学会」を実施しました。学生たちは早くもお気に入りの場所を見つけるなど、新図書館への期待を膨らませていました。



▲見学会のようす

図書館利用停止のお知らせ

新図書館への引っ越し作業に伴い、現在の図書館は次の日をもって閉館します。

- ◆本館 1月30日(月)
- ◆分館 2月20日(月)

これ以降、借用中の図書の返却は、返却ボックスを利用してください。

◆問い合わせ

名寄市立大学図書館

☎01654②4199(本館:内線3114/分館:内線2200)